

## 学生と教員で作る文理融合リベラルアーツFD公開フォーラム

文理融合リベラルアーツ科目を受講して ―受講学生の意見―

### 「ジェンダー」系列受講生

鶴澤 翔子 (文教育学部 人間社会科学科 1 年)

こんにちは。文教育学部人間社会科学科 1 年の鶴澤翔子です。私はリベラルアーツでは「ジェンダー」系列の授業を中心に履修しています。「ジェンダー」系列は一人なので心細いのですが、配布資料が白黒だし、パワーポイントとかではないので地味ですが、あるのでご覧ください。

私が今年度受講した「ジェンダー」系列の授業は、前期に「グローバル化 / ローカル性とジェンダー」、演習形式の「文化メディアとジェンダー」、後期に「アートとジェンダー」「テクノサイエンスのジェンダーポリティクス」「政策とジェンダー」の五つです。

この発表では、履修してみたの感想、また後にはもう少し客観的に文理融合と「ジェンダー」との結び付きについて考察しようと思います。よろしくお願いします。

まず、入学した当初に私がリベラルアーツという取り組みに対して抱いていた印象を述べます。私はお茶の水女子大学がリベラルアーツという取り組みを行っているということを知らずに入学したので、大学に入って右も左もよく分からない状態のときに、「文理融合リベラルアーツ」という言葉を初めて聞いたので少し当惑しました。

しかし、説明を受けると、リベラルアーツの目的が領域を横断した知識を備えること、教養科目と専門科目との間に連関を作ることだということが分かり、この必要性に共感しました。必ずしもある系列を選択し、履修しなくてもよいという説明をされましたが、私はリベラルアーツの目的を達成するためには、やはり系列を選択して、文理の両面から深めていく方法が適切だと感じたので、一つの系列を集中的に受講しようと決めました。

また同時に、履修を決める際に留意した点があります。もし自分が選択した系列で開講されている授業の中であまり興味がわかない授業があったとしても、履修してみようということを留意しました。大学の授業は基本的に自分の興味、関心に沿って、自分で時間割を組み立てますが、リベラルアーツの場合は、そのリベラルアーツの趣旨を考えると、自分の興味とか関心に合わせてばかりで履修を決めるのは、少し違うのではないかと考えたからです。

受講する前に、自分の興味、関心によってだけ取捨選択してしまうことで、そこに偏りが出てしまうと思います。興味を持っていない分野も含め、広く学ぶことで、今まで通り過ぎてきた、今まで見過ごしてきた、未知の見方や考え方に会えることができます。そうやってさまざまな視点を手に入れることで、もしかしたら新たな興味がわき、発見があるかもしれないと思ったからです。

私の場合は、「グローバル化 / ローカル性とジェンダー」を取るときに少し迷いました。この授業は文化人類学なのですが、文化人類学にあまり興味が持てなかったのが、受講する前の話ですが、ちょっと迷ったのです。しかし、受講してみると、ジェンダー観というのが地域によってさまざまということが分かりました。それまでは無意識のうちに、自分の生きる文化、日本のジェンダー観というのを中心に見ていたところがあったなと思いました。そういう点に気付けたということと、問題を相対化してみるという考え方、大切さということにも気付くことができました。「グローバル化 / ローカル性とジェンダー」を、最初は系列だから取ってみようと思っただけなのですが、取ってみて文化人類学が興味深い学問だということも分かりましたし、新たな視点を得ることもできました。

私が「ジェンダー」系列をそもそも選択しようと思ったのは、リベラルアーツの説明を受けてからかなり早い段階でした。私は受験期にある入門書を読んで、ジェンダーと出会って、今までの概念を 180 度転換させられて衝撃を受けました。お茶大に入学したらジェンダーを勉強したいと思っていたので、すぐに「ジェンダー」系列を選択しました。ほかの方よりも、専門科目を取るのと近いような感覚で取っていたと思います。もともと興味があったということです。

実際に、授業を受講してみて、この 1 年間「ジェンダー」系列の授業を受講してみたの感想なのですが、広い教養知識のほかにジェンダーに関する基礎知識や、社会に潜むジェンダーバイアスを見抜く力というのを見つけることができました。

特に興味深かった授業について紹介したいと思います。菅先生の「文化メディアとジェンダー」、菅先生がいるから言うわけではないのですが(笑)、「文化メディアとジェンダー」がすごく興味深かったです。この授業では社会がいかにジェンダーの影響を受けているかということ。そして、普段何気なく見ているものが、どういったメッセージを発信しているかということに対して、アニメとかマンガ、J-POP の歌詞、雑誌といった身近なものを題材に迫っていきました。

例えば社会は男性を中心に構成されているので、男性と言い換えることもできると思うのですが、社会が女性に対して求めている要素

というのが、J-POP の歌詞に暗に示されているということが多くあります。そのメッセージを授業で丁寧に読み解いていきました。すると、清らかで美しく、男性を受け入れる反面、男性によって所有される女性というのが理想とされているということが分かりました。

このように、授業では隠されたジェンダーの問題をあらわにする視点を獲得することができました。また、その視点を使い、グループごとで社会に潜むジェンダーを問題視し、発表することも行いました。

ここではジェンダーへの問題意識が深まっただけではなく、プレゼンテーションの基本的なスキルを学ぶことができました。

最後にリベラルアーツを履修する際に少し気になった点があります。今年度開講された講義形式の「ジェンダー」系列の授業は、前期の一つ、後期に三つだったのです。リベラルアーツの講義が、後期に集中してしまったということが少し気になりました。リベラルアーツの講義は基礎を分かりやすく教えてもらえるので、大学に入学したての1年生が多く受講できると思います。前期にもう少し講義形式の授業を増やして、演習を後期に置いた方がいいのではないかと思います。

次に、ジェンダーをリベラルアーツの系列科目として学ぶことの意義について、自分なりに考察してみます。リベラルアーツのような文理融合の視点というのは、ジェンダーを学ぶ上でとても重要だと私は考えています。その理由は2点あります。まず、ジェンダーにはニュートラルな視点が必要だと思うからです。男性中心のジェンダー観というのは、私たちの無意識の中に強烈に植えつけられています。あまりにも社会でそれが当たり前のこととされているために、そこにそういった問題があるということが意識にすら上ってこないようになっています。特定の観念に縛られていてはジェンダーの問題を見据えることができません。文理融合というよりニュートラルな視点からジェンダーを問題にしてみることによって、自分のフィールドだけで考えていたときには気付かなかった、新たな問題に気付くことができると思います。

二つ目の理由は、ジェンダーの問題が社会のあらゆるテーマと密接にかかわっているからです。ジェンダーはお手元の資料に挙げたのですが、大変多くのテーマと関係を持っています。理系のテーマもジェンダーとかかわっていることが多くあります。よって、文理の枠を超えた問題意識を持つことが必要だと思います。

また裏を返せばジェンダーの問題は、文系理系を問わず、すべての人にかかわる問題なので、文系だけでなく、理系の学生もぜひ学ぶべき問題だと思います。リベラルアーツの科目として「ジェンダー」を置くことで、理系の学生もジェンダーをより気軽に学ぶことができると思います。

私が思うリベラルアーツの今後の改善点を述べます。それはもっと文系の授業は理系の、理系の授業は文系の受講者を増やすことだと思います。特にジェンダーは、先ほど述べたように、理系の学生にとっても非常に重要な知識です。しかし、例えば「テクノサイエンスのジェンダーポリティクス」には理系の受講者が大変少ないです。多分「ジェンダー」は文系の学問だというイメージを抱いてのことだと思うのです。内容はすぐ理系の学生にとってもきっと大変興味のわくものだと思います。

領域を横断した知識を備えるというリベラルアーツの目的を達成するためには、リベラルアーツの授業を、文理両方の学生がより交わり合って学ぶ場にするのが求められているのではないかと思います。

最後にまとめを述べます。「ジェンダー」を文理融合のリベラルアーツで学ぶことはとても有意義だと思います。今後は文理の壁をさらに低くして、学生が自分のフィールドとは異なる教養、知識を広く身に付けやすい授業にしていけば、リベラルアーツという取り組みが、より効果を発揮するのではないかと思います。

あと、表面的なことなのですが、ほかの系列は結構、「色・音・香」とか、「生活世界の安全保障」とか、結構かっこいい名前が付いています。「ジェンダー」系列はそのままなので(笑)、もう少しかっこいい名前を付けていただけたらいいかなと思いました。これで終わります。ご清聴ありがとうございました。

### ジェンダー系列を受講して

「第3回 学生と教員でつくる文理融合リベラルアーツFDフォーラム」発表資料  
文教育学部人間社会科学科1年 鶴澤 雅子

- はじめに
  - 今年度受講したジェンダー系列の授業
    - 前期
      - 「グローバル化/ローカル性とジェンダー」
      - 「文化メディアとジェンダー」(演習)
    - 後期
      - 「アートとジェンダー」
      - 「テクノサイエンスのジェンダーポリティクス」
      - 「政策とジェンダー」
  - 発表内容
    - ジェンダー系列を受講してからの感想
    - 文理融合とジェンダーの結びつきについて考察
- 授業前のリベラルアーツに対する考え
  - 文理融合リベラルアーツとは
  - 1つのテーマを文理の両面から探める学び方
  - 新しいフィールドの開拓
  - 系列で受講
    - 興味はほぼない分野の授業も含まれる

通り過ぎた見方・考え方 → 新たな発見 → 新たな興味

  - 私の場合…
    - 「グローバル化/ローカル性とジェンダー」
    - 文化人類学
    - ジェンダー観は地域によってさまざま
    - 問題を相対化する大切さ
  - ジェンダー系列に決めた理由
    - ジェンダーの基礎知識
    - ジェンダー・バイアスを見抜く力
- 実際に授業を受講して
  - 基礎力の養成

- 文化メディアとジェンダーでは…
  - ・社会がもたらしたジェンダーの影響を受けているか
  - ・普段は気づいていないものの気づいたメッセージを発信しているか
  - 意識的なジェンダーの目標でとらえてみる

アニメ、漫画  
J-popの歌詞、雑誌  
など

  - 前後期での系列講義の隔り

- ジェンダーと文理融合-ジェンダーをLA科目として学ぶ意義
  - 文理融合の視点はジェンダーにおいて重要
  - ◎ニュートラルな視点
  - 無意識を意識化-思考に陥りあってはできない
  - ◎ジェンダーは社会のあらゆるテーマと密接に関わる

<ジェンダーに関するテーマの例>

  - ・芸術・労働・文学・歴史・スポーツ
  - ・商業・政治・経済・法・医学・統計
  - ・メディア・戦争・福祉・魅力・恋愛
  - ・植物学・工業・哲学・生物学
  - ・脳科学・文化人類学

etc...

→文理の枠を超えた問題意識
- 今後の改善点
  - ◎文系と理系がもっと混ざり合って受講する姿の実現を
  - 特にジェンダーは理系の学生にもっと受講するべき
- まとめ
  - ◎ジェンダーをLAで学ぶのは有意義
  - ◎今後は文理の壁をさらに低く
  - 自分のフィールド以外の視点も身に付けられる授業に